
Mr.ブリーフ

山口

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Mr.ブリーフ

【Nコード】

N3182L

【作者名】

山口

【あらすじ】

最凶OL対変質者、白昼の激闘。

私のマンションの近くに、しばしば変質者が出没する。

チビ・ハゲ・デブの三拍子そろった四十歳くらいのオヤジが、ブリーフ丁でスキップしながら現れるのだ。

私のような一人暮らしのOLにとって、これほど不快で危険な存在はない。見かける度に警察へ通報しているが、警察が来る前に姿をくらましてしまう。埒があかないので捕獲作戦を決行することにした。

用意したのはハリセンと縄。シバキ倒して捕縛し、警察に突き出すという完璧すぎる作戦だ。

よく晴れた日曜の朝、窓から外を眺めていると例のオヤジがやってきた。白昼堂々現れるとは敵ながらいい度胸だ。私はハリセンと縄を手に外へ跳び出した。

公園の中をスキップしているオヤジを後ろからシバキ倒そうとした瞬間、振り向いた彼と目が合った。

そのつばらな瞳を前に、私は固まってしまった。まるで心が洗われるようだ。こんな純真なものをシバくなんて、とてもできない。

私はオヤジを見つめながら尋ねた。

「なんでそんなことをしているの」

彼は胸を張って答えた。

「この素晴らしい体を見せつけたいからさ」

「じゃあ、なんでブリーフだけ履いてるの」

すると彼は顔を赤らめ、もじもじしながら股間を押さえて言った。

「……恥ずかしいから」

次の瞬間、私はオヤジをシバキ倒していた。

「お前のやつてること自体が恥ずかしいわ!」

彼はめでたく警察に捕まり、私の生活に平穏が訪れる……はずだった。

私は、一部始終を見ていた近所の人たちから「ハリセン女王」というあだ名をつけられ、白い目で見られながらひっそり暮らすことになってしまった。

そろそろ引越そうかな……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3182/>

Mr.ブリーフ

2011年10月7日02時34分発行